

說苑



内務技監の今昔 (七)

——谷口三郎氏——(上)

清水生



創造力を歴殺した歴史

曩の世界大戦

は恰も酸化鐵の蓋が下から崩出づる創造力を歴殺した歴史であつたヴェルサイユ體制の黄昏の

歴史と合せて無意義のものであつたことは今日は一層明瞭となつたのである。併し當時の人々は戦争をこれから未來永遠になくする戦争であるとか、民主主義の安全の爲にする戦争であるとか云ふて一廉の有意義な仕事をしたつもりで得意になつてゐたのである。これに反して日本は熟慮的計畫といふよりは寧ろ反射的直覺的環境に反作用して最少限度の安全のために大陸の半島に足場を築き、次第に國家鎮護の第一線を大陸に進めて來たのであるが、事實上は

大宇宙の攝理に導かれて、日本の完成東洋的東亞の保全または東亞の恢興進んで道義世界建設の爲にする世界大維新の實現に向つて進んで來たのである。それは大東亞維新の成立を更に世界新秩序建設に直接協力させ以て全世界維新を完遂しなければならぬのである。これには米英の民主主義の兩國を徹底的に屈服せしめて初めて日本の使命は果遂せらるゝのである。獨、伊其他の樞軸聯盟國と堅く結んで日本百年の大計は事實、この肇國以來の道義的使命と抱負と必成の信念とを堅持するのが實に、この爲めの大東亞戰爭である。

南方建設と技術者の責務

而してこの大東亞戰は武力戰であると共に他面に於ては建設戰である。思ふに支那事變開始以來既に五ヶ年、その間日本と滿洲國及び中華民國との經濟提携は愈々その緊密の度を加へると共に、土木其他の技術的方面に於ても日本の優秀なる技術が大陸に進出して以て國土發展の基礎を造りつゝある、更に新に加はるべき大東亞共榮圈の南方諸地

域は限りなき豊富な天然資源に包藏せられてゐる偉大なる國防經濟力と東亞諸地域住民の豊富多幸なる生活の基礎が確立さるべき洋洋たる前途を囑望し得るところである。併乍ら今回建設に参加せんとする地域たるや、資源は極めて豊富であるに拘らず、最近百年の間、米英兩國の極めて苛酷なる搾取の下に置かれたる地域たるが故に、その文化の發達は著しく迫害された地域である。更れば我國はこの地域を加へて人類史上に一新紀元を畫すべき新なる構想の下に大東亞永遠の平和を確立し進んで獨、伊の盟邦と共に世界維新……世界新秩序を建設せんとするのは正に曠古の大事業たるのである。従つてこの大事業の成功はまた我が武力戰の成功を窮極に於ての勝利たらしむるの必須條件たり得るのである。この建設に當つては大東亞防衛のため絶對必要な地域は勿論日本自これを把握措置せねばならぬ。従て武力戰と併行して資源開發其他有ゆる措置を異々その地域事情を參酌して敢行するの必要がある。而して建設地域の資源開發は長期戰の對應にも益々重要な役割を持つ

のであるが、これが基礎たる鐵道、道路等の交通事業、資源開發事業、河川の治水事業、港灣船舶の諸問題等技術的方面に於ても多々あるが、畢竟我國の優秀なる技術者の双肩に係る問題であると思はれるのである。

谷口三郎氏

茲に於て一人の優秀なる技術者を月旦することにする、この人は即ち曩に内務技術部の最高置位に居つた谷口三郎氏である。こゝに先づ筆の順序上氏の略歴を見ると。

谷口氏は明治十七年の四月に廣島縣佐伯郡五日市に谷口嘉一氏の三男として生れてゐる。爾來五日市と云ふところは、山陽線の一驛の都市であるが、所謂瀬戸内海に面して氣候は溫和にして、風光明媚とまででなくともよいところである。即ち正面には似島があり又右には日本三景の一つとして世人に稱觀される安藝の嚴島がある。

谷口氏はこのやうな所に孤々の聲を擧げて以來中學高等學校と正規の階段を順次に進んで、明治四十二年七月に東京帝國大學工科大学土木工學科を修了と共に翌四十三

年三月に内務系統の土木技術部に入つて先づ北海道廳の技師に任ぜられてゐたが、こゝに在職六年の後ち大正四年七月に本省に入つて内務技師兼拓務の各技師となり、更に鐵道省の技師を兼務したのであつた。而して内務省では土木局勤務として第一技術課長となり、昭和十一年十一月には内務省東京土木出張所長に榮轉したが更に同十四年六月六日に至つて、辰馬鎌藏氏と代つて内務技監に昇進したのである。而して約三ヶ年技監として在職したが昭和十七年三月廿日に現内務技監である鈴木雅次氏と代つて勇退したのである。氏の夫人房子女史は山口縣出身の阿會正治氏の令妹に當り、明治二十三年生れで東京府立第二高等女學校出身の賢女である。これが大體前内務技監であつた谷口三郎氏の略歴である。

氏の技監當時土木局の陣形

偕て課題の「内務技監の今昔」を書く上に於て先づ以て谷口氏が技監當時の内務土木行政部と技術部との主たる顔

觸を見ると、土木局長として現内務次官である山崎巖氏が昭和十五年一月まで在職して居たが現兵庫縣知事として地方長官に轉じた成田一郎氏と代はり更に成田氏のあとを襲ふて現在の國土局長である新居善太郎氏が在職してゐる。

更に技術方面では技監であつた氏を筆頭に第一技術課長には高橋嘉一郎、第二技術課長には金子源一郎、第三技術課長には赤木正雄の諸氏が異々その任につき、更に外廓として、土木試験所々長には藤井眞透、東京土木出張所長には現技監である鈴木雅次、横濱土木出張所長には三輪周藏、仙臺土木出張所長には金森誠之、新潟土木出張所長には蒲原、名古屋土木出張所長には田淵壽郎、大阪土木出張所長には佐藤利恭、神戸土木出張所長には原口忠次郎、下關土木出張所長には伊藤百世の諸氏といふやうな錚々の人々が所謂土木技術の堅陣を布いてゐたのである。而して道路課長には田中省吾、河川課長には澤重民、港灣課長には高橋庸彌の各書記官が各土木行政事務に精通したる所謂俊才が陣取つてその下に道路課事務官として武若時一郎、近藤欣

一、淺香小兵衛の諸氏、また河川課事務官として伊藤大
三、橋本甚四郎、安岡九十九の諸氏及び港灣課事務官として寺本廣作、嵯峨根達雄の各氏がその事務的に精通せる優秀な頭腦を持つて異々が夫れ／＼これを輔佐して内務土木行政として遺憾なからしめてゐたのであつた。

土木會議と谷口氏

谷口氏の技監在職中における土木專業關係の概要を見ると、氏が技監に就任後間もなく政府は土木會議を開いて。

我國道路の現状は其の改良、發達の程度低く特に鋪裝に至つては普及率極めて貧弱にして既に改良濟なるに拘らず未だ鋪裝するに至らざる區間甚だ多し、斯くの如きは道路の機能を著しく減殺するのみならず、自動車其他に及ぼす損耗實に莫大なるものあるを以て政府は一面に於て重要道路の一般的改良に努むると共に他方既改良未鋪裝道路を急速に鋪裝するの必要がある。

との見解の下に、新に道路鋪裝計畫の要綱と道路鋪裝二箇年計畫等を樹立して土木會議に諮問してゐるが、土木會

議はこれに對して、本計畫は我國の道路交通の現狀に照して充分ではないが、政府の生産力擴充計畫に即應して差當り緊急を要する道路の鋪裝を昭和十五、十六の兩年度に互つて施行せんとするものであれば所要物資及び勞力等の關係上止むを得ないところである。と云つて、更に政府は我國の道路の現狀に鑑みて一層これが改良に努むると共に更に根本的鋪裝計畫を樹立すべしとの希望條件を附して答申してゐる。

重要道路の整備

而して丁度氏の技監在職中に新に鋪裝せんとする道路は國道に於ては路線の總延長七千七百六十一籽府縣道では十萬六千六百二十二籽總計十一萬四千三百九十三籽であるが鋪裝二ヶ年計畫中では既改良砂利道を鋪裝するのであつて然してその利用の現狀に鑑みて緊急鋪裝を必要とする國道四百九十四籽、府縣道二千六百二籽を選択して施行するのである。而して氏の技監當時の昭和十五年度の道路改良費は國道改良費に於て五百九十二萬餘圓その内鋪裝費は二百

十二萬圓追加豫算に依る特殊施設關係の國道改良費の九十四萬餘圓が含まれてゐるが、同繼續費は六百八十九萬餘圓特殊國道改良費は二十五萬圓府縣道改良費の補助は鋪裝費補助の二百萬圓を加へて五百五十四萬餘圓與其他の六萬餘圓とで沖繩縣振興事業費及び鹿兒島縣大島郡振興事業費とを合せて千八百八十七萬餘圓であつたが、其他に重要道路の整備調査費が五萬圓あつて新に起興する國道改良繼續工事は東京大阪間の國道第一期改良工事に屬する沼津清水間と豊橋名古屋間の外四箇所であつて、その工事期間は七箇年繼續費の總額千九百五十八萬餘圓である。而して土木會議の諮問を経たる國道鋪裝費は十五年度では二百十二萬圓府縣道鋪裝費補助は二百萬圓であるが、重要道路の整備調査費は我國の道路の現狀が大都市及び其の附近の外は殆んど未改良の狀態と其の路線の分布等も亦必ずしも近代交通の需要に即せざる感がある然るに現下の情勢に鑑みると東亞新秩序の建設に即應して日滿支の三國を一體とする交通體制の確立を急務とするを以て從て國內重要幹線道路もまた

これに順應して急速に整備改良を圖る必要を感じて谷口氏が技監在職當時に土木局に於て重要道路網の選定並にこれが改良の順序方策及び自動車専用道路の要否等各種の調査研究をなさんとする、所謂重要道路整備に關する調査を開始することになつたのである。

本會路政座談會での氏の意見

而して氏は技監當時に本會主催の路政座談會に出席して道路の整備等について。

近時自動車の發達で、道路交通といふものは非常な進歩をして來たことは云ふまでもない次第である。併し今日やつて居る自動車交通の状況内容に互つて考へ見ると自動車の能力を十分に發揮して居らない有様である。或人は自動車の實際の能力の半分しか自動車の性能を發揮して居らないと言つて居る。これには種々の關係もあるが、一番大なる原因はやはり道路の整備が十分でないことに基因するのと思ふて居る。

と、道路と自動車の交通の關係を述べて。

併しその不備な道路交通でありながら、今日自動車輸送と云ふものは、段々と他の交通の領域まで進出して、自動車の交通經濟勢力範圍といふものは、段々擴がつて行く、それ等の事を考へると、今少し道路に力を入れる必要がある、他の輸送機關もあるが、それ等に比較して最も遅れて居るところに力を致して、道路交通といふことを吾々としては飛躍的にやらなければならぬといふ感じを常に懷いてゐたのである。

とて氏は道路の整備と發達並に道路交通の躍進の必要を説いて、更に、滿洲北支の道路問題に及んで。

夫れから道路に關して目下滿洲北支方面に於ては道路事業が大變起つて來て、事變以來吾々のところへ、これらの道路の仕事をなす技術者の派遣を依頼して來るのが頻々とある。これに對して出來得るだけ都合をして技術者を向ふへやつて居るが、最近の状況では最早や大部分出拂つて技術者は拂底を來たしてゐる、そういふ點から考へると共に將來大いに飛躍的にやらなければならぬ

から國內のみならず、國外でもまだ一要求は澤山あると思ふのである。その技術者の要求といふことも非常に重要な問題であるからこれも關心を持つて戴きたいといふ希望を持つて居る。

と其の後時局と國力の發展に連れて技術者の養成に一般の關心を呼び興してゐる。

各河川の治水事業

次に治水問題に移るが元來治水事業たるや國土の水患を防除して以て國民生活の安定と一國の産業經濟の發達を圖る基礎的事業に外ならないのである。更れば我國の土木行政の重要部分の一つである。治水事業は近時著しく其の歩武を進めて從て其の施設もまた着々と整備せられつゝあると雖も尙未だ各地に於ては所謂桑滄の變跡が絶へずしてこれがために徒らに巨額の損害が突發するの狀況にあるのが誠に遺憾である。茲に治水事業促進擴充を圖るのが緊要のことたるや論をまたないのである。而して谷口氏が技監在職中に於ける治水事業に關して當時の概要を見ると、その

流域を主として山形縣に存する最上川は我國有數の降雨地に屬して洪水氾濫による被害は年々増大するので大正六年度から改修工事に着手して居たが、大體に於て氏の技監在任中の昭和十六年度に竣工されてゐる。又長野縣下に於ける千曲川の改修事業もその上下流に於て常に水害が頻發するがために多年に互つて改修の緊要が叫ばれて居たが、大正七年度から改修を議決して國家が直接施行することとなり、その工費千百餘萬圓内地方負擔四百四十五萬圓を以て十ヶ年繼續事業として着手したのであつたが、この改修工事も亦氏の技監時代に略ぼ竣工を告げてゐる。またあの東海道にある天龍川は鐵道、國府縣道等の重要交通機關の安全と各種産業の發達其他沿岸住民の福利増進等の目的にて從來屢々大洪水に際會するのを防止するために大正十二年度からこれが改修工事に着手して居つたが、これ亦氏の技監時代に大略竣工してゐる。其他信濃川の上流、紀の川、千代川、蘆田川、綠川、北川、狩野川等の各河川の改修事業等は、大體氏の技監當時の昭和十六、七年度に於て竣工豫

定になつて居るから技監としての氏は直接これ等に關係せずとも間接的に各土木田張所長を通して關係してこれが促進に努めてゐる。「以下次號に續く」

こゝまで禿筆で書いたが筆者は谷口氏に正會して氏の

技監當時に於ける所感も御聞きして見たいのであつたが氏は或る所用を帯びて大陸に旅行されて不在であるから止むを得ず、この稿を以上で止めて以て次號に譲ることにしたことを讀者諸賢に謹んで申上げる次第である。

地球の中心が鐵であることは地球自體が一つの大きな磁石であると考へられてゐることゝ符合する、この他どんな元素が地球の内部に多いかといふことは、多勢の學者によつて研究されてゐるが、中心核には鐵を第一にニツケル、ユバルトがあり、白金やイリジウムなどの貴金屬、中間層には金、銀、銅などいろ／＼な金屬が相當含まれてゐるやうに考へられてゐる、勿論こんな深い所にどんな物質があつても直接吾々には何の關係もないが、地球の底深く入れば吾々が今血眼に

なつて探し廻つてゐる貴金屬が幾らでもあるのだと思ふ、と何となく微笑みたい氣持になる、しかも科學が長足の進歩を遂げて地球深くのこれらの金屬を掘るやうになつたら、將來は地球の中心あたりで壯烈な資源戰が行はれるだらう、これは科學者の夢の世界である。
(A新聞記事)

×	×	×	×	×
×	×	×	×	×
×	×	×	×	×
×	×	×	×	×